

加速する携帯電話の進化 現状と展望



広瀬健二*



高瀬和彦**



入野悦郎**

The Evolution of Mobile Phone : Current Status and Prospect

Kenji Hirose, Kazuhiko Takase, Etsuro Irino

要 旨

世界共通技術仕様による高速データ通信や高品質通話等を実現したNTTドコモの第3世代携帯電話FOMA(注1)が普及期に入っている。サービスエリアの人口カバー率や端末の連続通話可能時間等が第2世代並みになって、第3世代の特長の高速で快適なデータ通信サービスを、これまでの携帯電話と同じ使用感で利用することができる。2004年10月に706万契約に達したFOMAの契約数は、2005年には1,000万契約を超えて本格的に第3世代携帯電話の時代へ入ろうとしている。

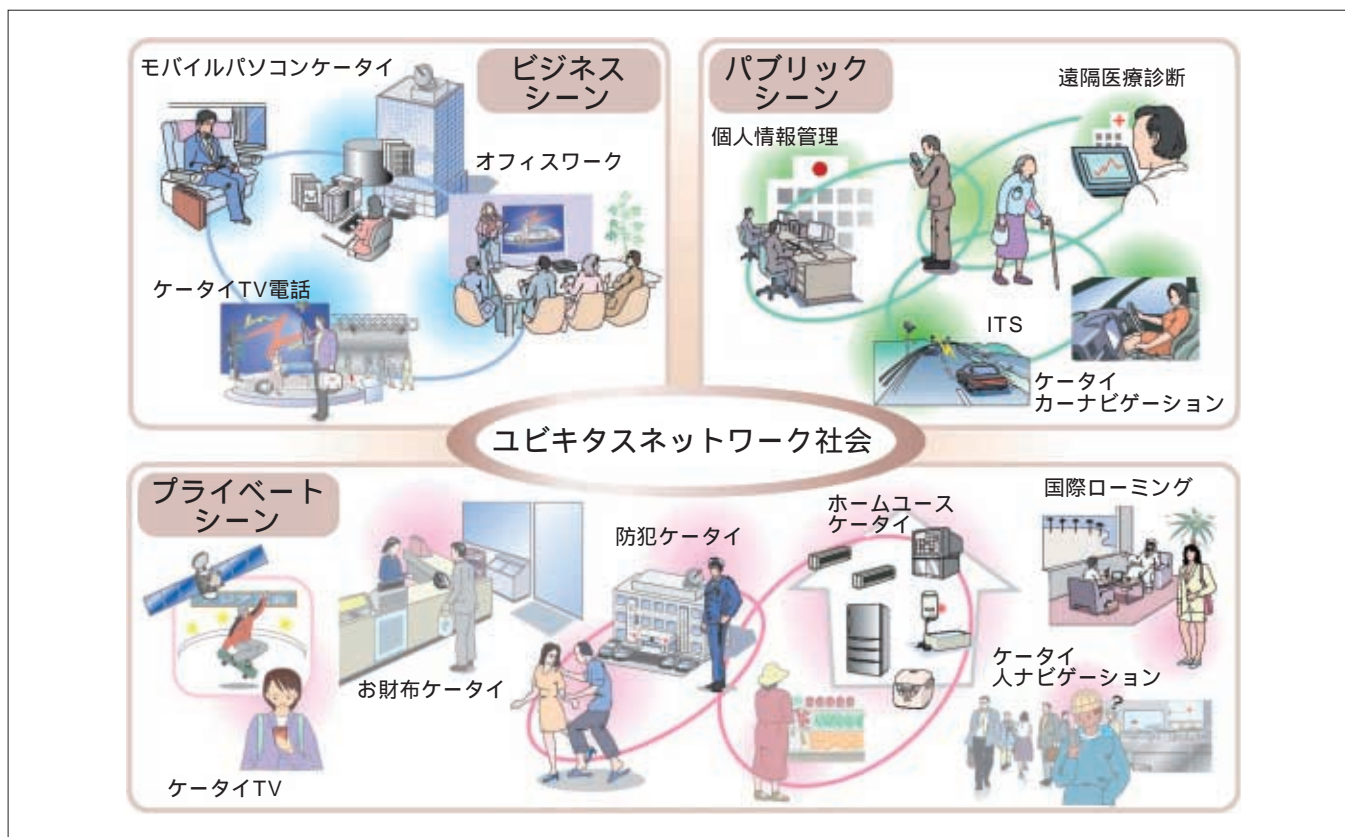
これまでの数年の間に、携帯電話は、音声通話機能に加えて電子メールやWeb閲覧そしてカメラ機能を標準的に持つようになった。この携帯電話のサービスの多様化は、人々の生活を便利で快適なものにする一方で、情報漏えい

や迷惑メールなど社会への弊害も生じさせ、モバイル通信におけるセキュリティ対策の重要性を高めている。

第3世代携帯電話の次の目標は、新しく備えた世界共通技術仕様と高速データ通信機能により、モバイル通信サービスの中心として世界中どこでも使えることや、異なった領域の製品と自在に情報をやり取りすることである。既に、ネットワークや通信関連の多くの国際標準化の団体がこの検討に取り組んでいる。

この特集号では、三菱電機の第3世代携帯電話製品の特長を述べ、ユビキタス時代における携帯電話に新しく期待される役割や技術等について述べる。

(注1) FOMAは、(株)NTTドコモの登録商標である。



ユビキタス時代の携帯電話の利用シーン

究極の情報通信インフラであるユビキタスネットワークが生み出す携帯電話利用は、通信手段を意識することなくオンデマンドで自在に情報のやり取りをすることである。例えば、防犯ケータイは自分の現在位置を知らせ、通過地域周辺の危険レベルを知り、万一危険に遭えば直接関係先に通報する。